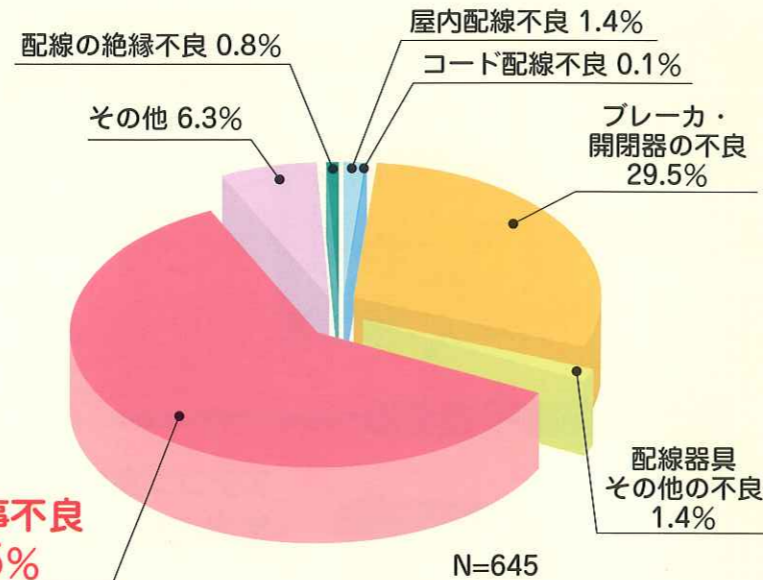


新增設工事現場から 接地工事不良をなくそう!!

全国で年間約500万件の新增設工事のうち、約1%の不良工事が
見つかっています。そのうち約6割を不良接地工事が占めています。

関西電力管内の不適合通知実績

	サンプル調査実績 【H20.8】
調査件数 (A)	30,027件
不適合件数 (B)	645件
不良率 (B) / (A)	2.15%



<関西でも不良工事のうち、約6割が接地工事不良です>

適切な自主検査時期の選定と計測器を活用した
自主検査の実施により接地工事不良をなくしましょう!

1. 接地は電気保安の要です。

- 漏電による感電や火災の発生防止のため、接地工事は不可欠です。
- 漏電遮断器の確実な動作の為に接地工事は必要です。
- 接地極施工後は必ず計測器で接地抵抗値の測定を行いましょう。

2. 集中接地端子付分電盤をお勧めします。

- 雷保護装置の性能を十分発揮するには、集中接地方式をお勧めします。
- 将来の回路増設においても接地工事が容易になります。

不良設備発見例

●施工不良例1



配電盤(分電盤)の金属製構造物に接地極が施されて
いなかったもの。

金属製外箱
に接地なし

配電盤および分電盤を収める金属製の箱及びこれを支持する金属枠または構造物は、接地工事を施しましょう。

電技第10条 (解釈第29条・内線規程1365-7)

●施工不良例2



接地線が露出していたため、接地線が引っ掛けられ、
素線切れとなっていたもの。

接地線が露出
している

素線が露出し
切れている

接地線が外傷を受けるおそれがある場合は、
合成樹脂管などに収めましょう。

電技第6,11条 (解釈第20条・内線規程1350-3)

●第三者過失例1



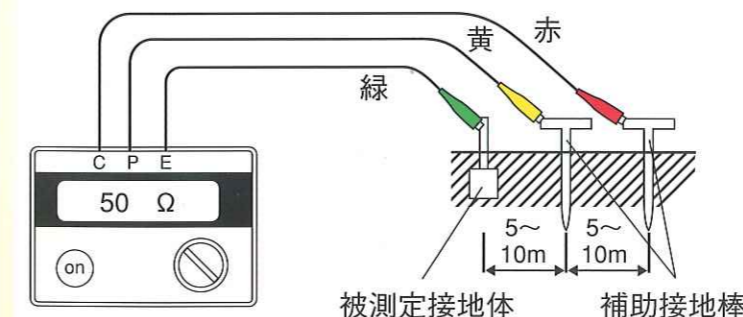
自主検査完了後に外構工事業者が、誤って接地極を抜いてし
まったと思われるもの。

接地極が抜け
ている

同一工事現場にて工事を実施している他の
業者へPRを行い、第三者からの被害防止に
つとめましょう。

(参考)接地抵抗の測定方法

*詳細につきましては、お使いの測定器製造メーカーの取扱説明書をご確認下さい。



●補助接地棒の打ち込みと配線

被測定接地体から約5~10m間隔でほぼ一直線上に
補助接地棒P端子用、C端子用をそれぞれ大地に深く
埋めこみ、E、P、C端子から測定リード線(緑)(黄)(赤)
を被測定接地体、補助接地棒P、補助接地棒Cの順に
接続し、測定する。

・補助接地棒はできるだけ湿気が多い土の部分に打ち
込む。やむを得ず乾燥したところ、または小石の多い
ところや砂地の場合は、補助接地棒を打ち込んだ部
分に水をかけて十分に湿気を持たせる。

<重要>

・コンクリート上では補助接地棒を寝かせて水をかける
か、濡れ雑巾等を補助接地棒の上にかけて測定する。